

グローバル時代の 企業の租税回避

グローバル資本主義とローカル国家

クレジット

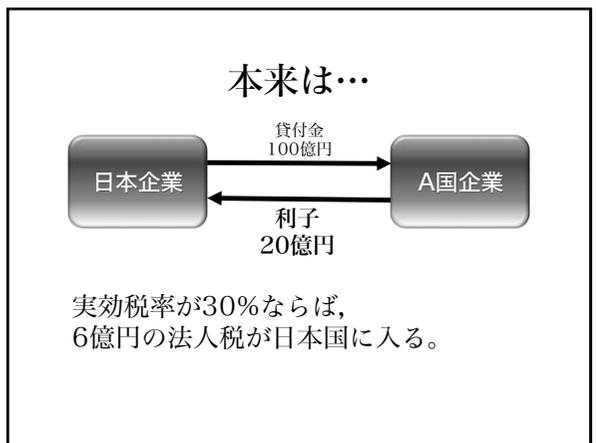
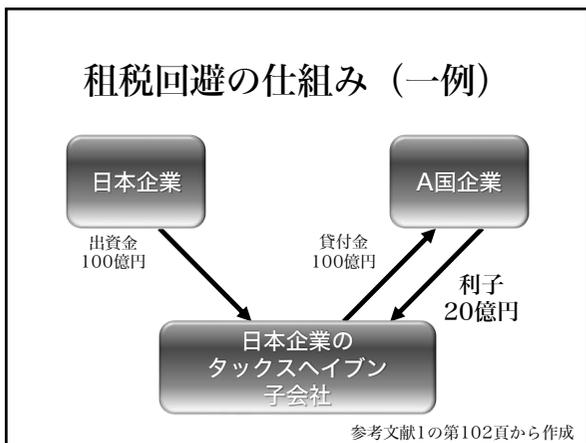
「“租税回避マネー”を追い
～国家VSグローバル企業～」
『クローズアップ現代』,
(NHK) より

注目点

- ➡ 資本のグローバルな運動が国民国家というローカルな制限を乗り越える。
- ➡ 資本主義的営利企業の正当性が問われる。

租税回避の背景

- 昔からある問題。それが以下の背景の下にアクチュアルなトピックスに：
 - A) 一方では経済のグローバル化
 - 金融のグローバル化
 - 超国籍企業
 - B) 他方ではローカルな国民国家の危機
 - 財政危機（福祉破綻）
 - 貧富の格差の増大



租税回避に対する現在の対策

- CFC (Controlled Foreign Company) 税制
 - タックスヘイブンで生じた子会社に内部留保されている所得は親会社の所得としてみなす。
- 移転価格税制
 - 関連会社間での国際取引価格が、独立第三者間での国際取引価格と異なる場合には、価格操作によって、タックスヘイブンの関連会社に利益を付け替えたとみなす。

参考文献

1. 『タックスヘイブン』志賀櫻著，岩波書店（岩波新書1417）2013年
 - 簡潔にまとめた本だが，現在アクチュアルなトピックスは網羅している。
2. 『[徹底説明] タックスヘイブン——グローバル経済の見えざる中心のメカニズムと実態——』ロナン・バラン他著，作品社，2013年
 - 詳しい本。1と較べて，特に，タックスヘイブンの利用・規制の歴史的な経緯や現在の国際政治におけるその位置付けに詳しい。また統計データが豊富。